

調査報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	(※評価機関で記入)4670102047
法人名	医療法人 春風会
事業所名	グループホーム はるかぜ
所在地 (電話番号)	鹿児島市西陵6丁目21番21号 (電話)099-283-0991
評価機関名	特定非営利活動法人福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂本町27-5前田ビル1F
訪問調査日	平成20年7月16日

【情報提供票より】(20年 6 月 15 日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 12 年 4 月 7 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 6人, 非常勤 11人, 常勤換算	12.515人

(2)建物概要

建物形態	単独	新築/改築
建物構造	鉄骨 造り	
	2階建ての	2階 ~ 2階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,250 円	その他の経費(月額)	実費
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4)利用者の概要(6月15日現在)

利用者人数	18名	男性	1名	女性	17名
要介護1	2名	要介護2	5名		
要介護3	3名	要介護4	6名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 88.285歳	最低	64歳	最高	97歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	田上記念病院、西歯科医院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

西陵団地中心部に位置し、周囲にスーパーや銀行、医療機関等が密集する生活利便性の高い環境に建っている。利用者は、ホーム入り口に作られた菜園を楽しみながら、道路を歩きかう方々との会話を通して、地域との日常的な交流を図っている。利用者の「したいこと、できること」を尊重したケアを目指し、管理者・職員は意欲的にケアの質向上に取り組んでおり、明るい雰囲気を作り出している。法人内の協力医療機関との連携も図られており、利用者家族の安心感も高い。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価後の取り組みと改善はすべて行われている。「利用者本位の介護計画」については、個別性を重視した具体的な計画となっており、「災害対策」については、備蓄準備もなされている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者をはじめ職員は、評価の意義について理解しており、自己評価もホーム全体で取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	町内会長をはじめ、地域住民の出席も多く、地域包括支援センター職員、利用者家族の出席のもと、2ヶ月に一度定期的に開催されている。地域の催事や災害時の対応等について意見を出してもらい運営に反映させている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	職員に対して何でも話せる雰囲気作りに努めており、職員側から声かけをして意見要望について尋ねるようにしている。6月には家族アンケートを実施している。また、毎月「はるかぜメール」というホーム便りを通して家族には報告をしている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会へ加入するとともに、地域行事へは積極的に参加している。地域の方が野菜の差し入れをしてくれたり、ホームに立ち寄って菜園指導をしてくれたりとの日常的な交流がある。

調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの役割を考えた、事業所独自の理念をわかりやすく具体的な言葉でつくりあげている。		
		○理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を掲示するとともに、毎日の申し送り時に唱和し理念の実践について話し合っている。		
2. 地域との支えあい					
		○地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入しており、行事には積極的に参加して老人会活動をともにしている。地域の方が野菜の差し入れをしてくれるほか、通りがかりに菜園の指導を気安くしてくれる等、日常的な交流ができています。また、地域の体験学習も受け入れている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		○評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者をはじめ職員は、自己評価及び外部評価の意義を理解し、全員で取り組んでいる。前回の改善課題への取り組みはすべてなされており、改善されている。		
		○運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会長をはじめ地域住民の代表者が多く出席され、地域包括支援センター職員、利用者家族の出席もあり、それぞれの立場から意見をもらい、運営に役立っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターへの訪問・相談や行政側の相談電話等を通して、ともに問題解決に向けて取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月のホーム便り「はるかぜメール」にて利用者の暮らしぶりや職員異動について知らせている。金銭管理についても毎月書面をもって報告しており、面会時には随時状況を話すように心がけている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族面会時には苦情を訴えやすい雰囲気作りに努め、職員側から要望について尋ねている。6月に家族アンケートを実施しており、家族等の意見の反映に努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理運営者は、馴染みの関係の重要性を理解しており、職員の交代がある場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮を行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修やホーム内勉強会を行うと共に、外部研修には出来るだけ公平に交代で出席しているものの、職員各自の段階に応じた研修が行われているとは言いがたい。	○	今後は職員各自に応じた段階的な研修として、採用時研修や新人研修などの研修内容を具体的に検討していただきたい。また、年間の研修計画についても作成が望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	鹿児島県グループホーム協議会に加入しており、交代で研修会へは参加しているが、職員が他のホームの職員と交流するというまでには至っていない。	○	同業者との交流や連携の必要性を管理者・職員が認識し、形式的な交流ではなく、ホーム間の見学や相互研修として具体的な活動につなげていただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス開始前にはできるだけホームの見学をしてもらい、見学に来れない方には自宅や病院に管理者が出向き、顔なじみの関係を作るような取り組みをしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員が忙しい時には利用者が茶碗洗いや後始末等を率先して行い、精神的にも職員を支える存在となっている。また、季節の野菜を職員と利用者が一緒に栽培したり、思いを傾聴、共感する中で共に過ごす関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの話を傾聴し、日々のかかわりの中で思いや意向の把握を行っており、ADL表や身体表、生活シートを用い記録している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成担当者を中心に職員や家族と検討し、利用者主体の個別介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月1回は定期的に評価をし、モニタリングは3ヶ月に一度行っている。その際、計画担当者だけでなく職員もともに検討を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	状態に応じた通院介助や美容室外出、買い物支援を行っており、家族宿泊時は食事を提供している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医選択においては利用者及び家族の希望を大事にしており、その上で協力医療機関の支援をもらっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「終末期生活支援についての覚書」「看取りについての同意書」等の書式の準備はなされているが、職員関係者が重度化や終末期に対する方針を共有しているとは言い難い。	○	今後は、管理者や利用者家族だけでなく職員も重度化や終末期の方針を共有するとともに、知識や技術の習得について検討していただきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者、職員は、日々のケアの中で利用者への言葉遣いや職員間の会話に配慮するように心がけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースや希望を取り入れ、その日の体調や気分に合わせて支援ができるよう努力している。利用者と同じ目線でみることを心がけ、楽しく過ごすためにも信頼関係を大事にしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえや配膳を能力に応じてしてもらい、職員も同じテーブルにつき介助をしながら和やかな雰囲気の中で食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	いつでも温泉が出る環境にあり、利用者一人ひとりの希望に応じて入浴支援をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は、野菜の皮むきをはじめ様々な家事を生活の中で行ったり、利用者間のまとめ役をすることでそれぞれの役割を見出している。職員は、車椅子の利用者も力を活かせるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	二階の車椅子利用者も戸外に出れるよう、職員が積極的に声かけを行い外出している。散歩や外気浴など日常的に屋外に出るほか、地域行事への参加を支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関をはじめ各居室に鍵をかけない自由な暮らしの支援を行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間を想定した避難訓練を含め、消防関係者の協力のもと定期的な訓練を行っており、近隣の法人施設への協力依頼もしている。災害時の備蓄は準備されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の栄養士から食事内容についてのアドバイスをもらっており、食事形態も必要に応じて変えている。水分摂取への配慮もなされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく家庭的で、至るところに花々が飾ってあり落ち着いた雰囲気を醸し出している。ホーム内外は季節が感じられる空間となっており、利用者は和室やソファなど思い思いの場所でくつろいでいる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた筆筒やテレビ、仏具、趣味の品など利用者の馴染みの道具が持ち込まれている。		